

## 共産党にとって肝心なこと

もしある国で、革命的活動をやる用意のある信念の堅い共産主義者、ソヴェト権力（ロシア以外の人々がときとしてつかっている用語によれば、「ソヴェト制度」）の誠実な支持者たちが、議会参加の問題をめぐる意見の相違のために一つになれないとすれば、どうしたらよいでしょうか？

私は、こういう意見の相違は現在では本質的なものではないと考えます。なぜなら、ソヴェト権力をめざす闘争は、もっとも高度の、もっとも意識的な、もっとも革命的な形態でのプロレタリアートの政治闘争だからです。部分的な、第二義的な問題で誤りをおかしている革命的労働者とともにいるほうが、この部分的な問題では正しい戦術をとともにしても、誠実な不屈の革命家ではなく、労働者大衆のあいだで革命的活動をやりたがらないか、あるいはやる力のない「公認の」社会主義者や社会民主主義者とともにいるよりは、ましです。ところで、議会制度の問題は、現在では、部分的・第二義的な問題です。私に言わせれば、ローザ・ルクセンブルグとカール・リープクネヒトが、ベルリンでひらかれたスパルタクス団の1919年1月の協議会で、この協議会の多数派に**反対して**、ドイツのブルジョア議会すなわち憲法制定「国民議会」の選挙に参加することを主張したのは、正しかったのです。だが、もちろん、彼らが、シャイデマンとその党や、またカウツキー、ハーゼ、D ä umig [ドイミヒ] や、ドイツの「独立派」のこの「党」全体のような、従僕的人物、空論家、腰抜け、ブルジョアジーの意志薄弱な助手、実際上の改良主義者といった類の、社会主義の露骨な裏切者と事をとともにするよりは、部分的な誤りをおかした共産党とともにとどまるほうをえらんだのは、いっそう正しいことでした。

私の個人的な確信では、議会選挙への参加を拒否していることはイギリスの革命的労働者の誤りですが、しかしあなたがかぞえあげた、ポリシェヴィズムに共鳴し、心からソヴェト共和国に賛成している流派や分子のすべてからイギリスの大きな労働者の共産党を結成するのをおくらせるよりは、この誤りをおかすほうがましです。もしBSPのなかには、たとえば議会参加の問題をめぐる意見の不一致のために、いますぐ第四、第六、第七の潮流と合同して共産党を結成することを拒否するような誠実なポリシェヴィキがいるとすれば、私の考えでは、これらのポリシェヴィキは、イギリスのブルジョア議会の選挙を拒否する誤りよりも千倍も大きな誤りをおかすことになるでしょう。もちろん、私がこういうことを言うばあいには、四、六、七の諸潮流が全体として、単なる**小さな**インテリゲンツィア・グループではなく——イギリスではそういうグループがよくあるのですが——、実際に労働者**大衆**と結びついているものと前提していることは、言うまでもありません。たぶん、この点でとくに重要なのは、**大衆**と密接に結びついていると考えなければならない Workers Committees [労働者委員会] と Shop Stewards [職場世話役] であろうと、私はおもいます。

労働者大衆と切ってもきれないように結びつくこと、たえず彼らのあいだで煽動をおこない、どのストライキにも参加し、大衆のあらゆる要請にこたえる能力をもつこと——これが共産党にとって肝心なことです。イギリスのような国ではとくにそうです。このイギリスでは（もっとも帝国主義国ならどこでもそうですが）、これまで社会主義運動、一般

に労働運動に参加してきたのは、主として、労働者のごく限られた上層、労働貴族に属する分子であり、その大部分は、改良主義のために骨の髄まで、どうにもならないほど腐らされ、ブルジョア的・帝国主義的偏見のとりこになった人々です。こうした層に反対してたたかわないでは、この層が労働者のあいだでもっているあらゆる権威を打ちこわさないでは、この層がブルジョア的に腐りきっていることを大衆に納得させないでは、真剣な共産主義的労働運動などは問題にもなりません。このことは、イギリスにも、フランスにも、アメリカにも、ドイツにも、あてはまります。

議会制度に攻撃を集中している労働者革命家は、この攻撃によってブルジョア議会制度やブルジョア民主主義の原則的な否認を表明しているかぎりでは、まったく正しいのです。ソヴェト権力、ソヴェト共和国——これこそ、労働者革命がブルジョア民主主義にとって代らせたものであり、これこそ、資本主義から社会主義への移行の形態、プロレタリアートの独裁の形態なのです。そして、議会制度の批判は、ソヴェト権力への移行を理由づけるものとして、正当で必要なだけでなく、また、議会制度が歴史的に制約され制限されたものであること、資本主義と、もっぱら資本主義だけと結びついたものであること、議会制度は中世的制度に比べれば進歩的であるが、ソヴェト権力に比べれば反動的であることを意識したものとしても、まったく正しいのです。

しかし、ヨーロッパとアメリカにおける議会制度の批判は、無政府主義者やアナルコーサンディカリストによってなされているばあいには、非常にしばしばまちがったものとなっています。なぜなら、彼らは、選挙や議会活動への参加はどんなものでも拒否しているからです。ここに革命的経験の不足が端的に現れています。われわれロシア人は二十世紀になってから二つの大革命を経験しましたので、総じて革命期、とくに**直接の革命期**に、議会制度がどういう意義をもちうるか、また実際にもつか、よく知っています。ブルジョア議会はこれを取りのぞいて、ソヴェト制度に代えなければなりません。このことは疑う余地のないことです。ロシアや、ハンガリアや、ドイツや、その他の国々の経験を経たいまでは、プロレタリア革命にあたってこれが**無条件におこなわれる**ことは、疑問の余地がありません。ですから、これにそなえて労働者大衆に系統的な準備をととのえさせること、まえもって彼らにソヴェト権力の意義を説明すること、ソヴェト権力のための宣伝煽動をおこなうこと——すべてこうしたことは、実際の革命家であろうとする労働者にとって、**無条件**の義務です。しかし、われわれロシア人は、議会の舞台でも活動することによって、この任務を遂行したのです。ツァーリの、にせの、地主的な国会で、われわれの議員たちは、革命的な宣伝や共和制の宣伝をやることができましたのです。それとちょうど同じように、ブルジョア議会のなかで、その内部から、**ソヴェトの宣伝をやることも**できますし、またやらなければなりません。

ある議会制国家では、こうしたことを一挙になしとげるのは容易ではないかもしれませんが。しかし、それは別個の問題です。万国の革命的労働者にこの正しい戦術を自分のものにさせるように努力しなければなりません。そして、労働者党が実際に**革命的**であるなら、それが実際に**労働者党**（すなわち、大衆と、勤労者の大多数と結びつき、プロレタリアートの上層だけとではなくその**下層**と結びついた党）であるなら、それが実際に**党**であるなら、すなわち、ありとあらゆる方法で大衆のあいだで革命的活動をやることのできる、しっかりと、真剣に結束した**組織**であるなら、こうした党は、きっと、**自党**の議員を掌握す

ることができるでしょうし、彼らを、ブルジョア的な手管や、ブルジョア的な習慣や、ブルジョア的な思想や、ブルジョア的な無思想でプロレタリアートを墮落させる日和見主義者ではなく、カール・リープクネヒトのような、ほんとうの革命的宣伝家に育てあげることができるでしょう。 第29巻『ジルヴィア・パンクハーストへの手紙』P578～581

1919年8月28日

## ポイント

部分的な、第二義的な問題で誤りをおかしている革命的労働者とともにいるほうが、この部分的な問題では正しい戦術をともしなくても、誠実な不屈の革命家ではなく、労働者大衆のあいだで革命的活動をやりたがらないか、あるいはやる力のない「公認の」社会主義者や社会民主主義者とともにいるよりはましだ。

労働者大衆と切ってもきれないように結びつくこと、たえず彼らのあいだで煽動をおこない、どのストライキにも参加し、大衆のあらゆる要請にこたえる能力をもつこと——これが共産党にとって肝心なことだ。イギリスのような国ではとくにそうだ。このイギリスでは（もっとも帝国主義国ならどこでもそうですが）、これまで社会主義運動、一般に労働運動に参加してきたのは、主として、労働者のごく限られた上層、労働貴族に属する分子であり、その大部分は、改良主義のために骨の髄まで、どうにもならないほど腐らされ、ブルジョア的・帝国主義的偏見のとりこになった人々です。こうした層に反対してたたかわないでは、この層が労働者のあいだでもっているあらゆる権威を打ちこわさないでは、この層がブルジョア的に腐りきっていることを大衆に納得させないでは、真剣な共産主義的労働運動などは問題にもならない。このことは、イギリスにも、フランスにも、アメリカにも、ドイツにも、あてはまる。

議会制度に攻撃を集中している労働者革命家は、この攻撃によってブルジョア議会制度やブルジョア民主主義の原則的な否認を表明しているかぎりでは、まったく正しい。議会制度が歴史的に制約され制限されたものであること、資本主義と、もっぱら資本主義だけと結びついたものであること、議会制度は中世的制度に比べれば進歩的であるが、ソヴェト権力に比べれば反動的であることを意識したものとして、まったく正しい。

労働者党が実際に革命的であるなら、それが実際に労働者党（すなわち、大衆と、勤労者の大多数と結びつき、プロレタリアートの上層だけとではなくその下層と結びついた党）であるなら、それがほんとうの党であるなら、ありとあらゆる方法で大衆のあいだで革命的活動をやることのできる、しっかりと、真剣に結束した組織であるなら、こうした党は、自党の議員を掌握することができ、彼らを、ブルジョア的な手管や、ブルジョア的な習慣や、ブルジョア的な思想や、ブルジョア的な無思想でプロレタリアートを墮落させる日和見主義者ではなく、カール・リープクネヒトのような、ほんとうの革命的宣伝家に育てあげることができる。